

令和4年度
(第33期)
事業報告

社会福祉法人AJU自立の家



目次

| | |
|---------------------|----|
| ・令和4年度を振り返って | 1 |
| ・福祉ホーム | 2 |
| ・デイセンターサマリアハウス | 3 |
| ・自立生活体験室 | 4 |
| ・マイライフ | 5 |
| ・マイライフ西 | 7 |
| ・自立生活情報センター サポートJ | 9 |
| ・わだちコンピュータハウス | 10 |
| ・ピア名古屋 | 13 |
| ・小牧ワイナリー | 15 |
| ・昭和区障害者基幹相談支援センター | 20 |
| ・相談支援事業サマリアハウス | 22 |
| ・マイプラン・ケアマネジメントセンター | 24 |
| ・AJUリカバリーセンター・フェロー | 25 |
| ・社会啓発・社会貢献事業室 | 27 |

令和4年度を振り返って

令和4年度は国内外において、まさに「激動の年」でありました。ロシア軍がウクライナに侵攻し国際秩序が乱れ、結果、食品やエネルギーなどの価格高騰に拍車がかかり、我々国民の生活にも多大な影響を与えております。また国内においては、安倍晋三元総理大臣が演説中に襲撃され亡くなるという「安全な国＝日本」という概念が大きく揺らぐ事件も起きました。一方でサッカーワールドカップカタール大会開催や野球界での快記録などアスリートの活躍が印象的な年になったとも言えます。

AJU 自立の家においては、徐々に規制緩和に対する動きが進められているものの、長く続いたコロナウイルス感染症の影響により、ヘルパー体制の安定構築の困難性、通所サービスの利用規制、通院や入院時への人的支援のハードルの高さなど、これまでの日常とは違った生活スタイルを受け入れなくてはならず、我慢の続く日々を送ってきました。そういった状況においても、3年ぶりに開催した後援会主催のウェルフェアコンサートやワインフェスタでは、人とつながる大切さと温かさをより強く認識することができました。

また、当初は馴染みのなかったオンラインを活用した「新時代コミュニケーション」にもようやく慣れつつあり、ミーティングや情報共有の効率性も向上することができたと感じております。このことは年度目標に挙げた方針の一つでもあった、コロナ感染状況を理由に「できない」とするのではなく「何ができるか」へ視点を変えたことにより実現することができた、我々にとっても大きな成功体験となりました。

次に掲げた人材育成・教育においては、「人を育む」という取り組みが2年目を迎え、次年度から始まる所長体制がスムーズに移行できるよう、まずは各所長が部署の目的を達成するためのビジョンを明確に指し示し、その思いを他の職員に伝えるため、コミュニケーションを意識的におこなう機会を設けました。コミュニケーションに対する意識は、職員一人ひとりの中によりよく芽生え始めた段階であるため、「教える教わる風土」の基盤づくりとして、育成（組織の成長）のために取り組まなければならない重点項目として位置づけます。

残された課題としては、次年度からの所長体制において、更なる組織力強化を目指すために、ビジョンの明確化とそれを伝えるコミュニケーション力に加え、所長が組織の船頭としての覚悟と意識を高める学びの機会や、チームを支える職員一人ひとりのスキルアップも不可欠であるため、外部研修も含めた自己研鑽には積極的に取り組んでもらいます。また、具体的数字目標として掲げた「3%以上のカイゼン」においても、コロナ渦による大きな影響を受けたこともあり、目標値達成には至りませんでした。コロナ以前までに回復をすることは決して簡単な道のりではありませんが、次年度も引き続き各部署において3%数値改善に向けた取り組みを追及し、健全な法人運営に努めていきます。

社会福祉法人 AJU 自立の家

常務理事 辻 直哉

福祉ホーム

I. 総括

近年、様々な障害状況の方が入居されており、法人内他部署及び他事業所等との連携をとるため課題や支援方法について話し合う場を持つことが出来ました。また、「下宿屋の理念継承」として入居者のつどいを始めイベントの開催、体験室利用者に対して先輩当事者が話をする機会を作り、数年行えなかった「対面でコミュニケーションをとる場」の提供に取り組みました。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的行動

①「障害者の下宿屋」の理念の継承

- ・入居者同士の関係を再構築するため、対面でのつどいを再開しました。日常生活での困りごとやイベントについて話し合うことで仲を深める機会となりました。
- ・高齢化、二次障害による体調不良者が増加し福祉ホームとしての役割を模索しました。

②施設、特別支援学校、相談支援センターを訪問し、自立生活体験室の取り組みを伝え、地域生活を志す障害者を発掘します。

- ・体験室を通して、入居希望のある5名の地域生活をを目指す当事者を発掘することが出来ました。

③次世代移行プロジェクトのテーマ「人を育む」を実現するため、課題を整理し解決するために取り組みます。

- ・次世代への移行にむけて、課題となる若いスタッフの経験不足を解消するため、入居希望の方との関係づくり、各関係機関との連携や協力の方法を学ぶ機会作りしました。

2. 入居者(令和5年3月末)

| 氏名 | 年齢 | 区分 | 生活状況等 | 入居期間 |
|-----|----|----|--------------------------|--------|
| Hさん | 23 | 6 | ピア名古屋通所。7月退居予定。 | 3年6カ月 |
| Aさん | 21 | 6 | 大学4年生進学。大学卒業後地元に戻り生活予定。 | 3年1カ月 |
| Sさん | 43 | 4 | 各地のCIL、NPOへ訪問。 | 2年11カ月 |
| Yさん | 41 | 6 | デイセンター通所。大学入学希望あり。 | 2年5カ月 |
| Wさん | 51 | 6 | 体調不良のため長期入院中。 | 2年4カ月 |
| Kさん | 54 | 3 | 長期入院を経てホームに戻られる。介護保険利用者。 | 2年 |
| Nさん | 65 | 6 | デイサービス通所。介護保険利用者。 | 9カ月 |
| Nさん | 30 | 5 | デイサービス通所。高浜市と時間数交渉中。 | 4カ月 |

退居者(令和5年3月末)

| 氏名 | 年齢 | 区分 | 生活状況等 | 入居期間 |
|-----|----|----|-----------------|--------|
| Nさん | 50 | 6 | 北区市営住宅へ転居。 | 2年10カ月 |
| Kさん | 22 | 6 | 名古屋市内のアパートへ転居。 | 3年4カ月 |
| Mさん | 43 | 5 | 天白区のグループホームへ転居。 | 3年11カ月 |

III. 継続課題

- ・入居者同士、先輩当事者、職員との交流機会の増加。
- ・高齢化や二次障害の様々な課題に対して福祉ホームとして担える役割の検討。
- ・当事者への支援の質や幅が広がるよう、スタッフのスキルアップを図る。

デイセンターサマリアハウス

I. 総括

コロナ感染対策をしつつ、段階的に活動、取り組みを拡大できました。下半期は2次障害による重度化や傷病による入院の方が5名みえ、退院後の体調管理、他事業との調整フォローに努めました。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

- ①デイメンバーのニーズに等しく対応し楽しさと学びを感じてもらえるよう、個別支援計画をもとに提案・提供します。
 - ・重度なメンバーに対して意思表示が可能なメンバーが声をかけ調理や外出活動を一緒にし、活動内容を写真にとって紙面にはり、コメントも記入し情報を発信しました。
 - ・デイ新聞をデイメンバー同士で発行するために取材内容を話あい、取材のためにインタビューを行ったり、新しいレジャー施設のバリアフリーチェックに行きました。
- ②法人内関係事業所、サマリア内部で連携、協働で人材発掘支援体制を構築します。
 - ・実習生対応、授業アピール等にてメンバーが自分の生活について語り、ボランティア、ヘルパー、スタッフ獲得へ繋げました。
- ③「人を育む」をテーマで引き続き、スタッフ、デイメンバー共にスキルアップができる取り組みを考えていきます。
 - ・スタッフは社会福祉協議会、社会福祉士会、福祉用具プラザの講座を受講し、学んだ事をミーティングの場で報告し共有しました。
 - ・スタッフに協力してもらい実習生に伝える話を作成しました。実習対応者ミーティングではデイメンバー同士で実習生対応における意見交換をしました。又、実習記録を読み、自分が伝えた内容が実習生に伝わったかを確認し次回対応に繋げました。

2. 前年度実績との比較

| | 来所延べ数 | 平均利用者数 | 給食サービス | 送迎サービス |
|----------|-------|--------|--------|--------|
| 令和3年度月平均 | 315人 | 12.3人 | 211食 | 138人 |
| 令和4年度月平均 | 305人 | 12人 | 212食 | 127人 |
| 前年度比 | 97% | 98% | 100% | 92% |

※収入：令和3年度75,164,923円・令和4年度72,525,116円：前年度との収入比96%）
11月～3月まで入院された方が合計5名あった為、減収となる。

III. 継続課題

- ・実習生、ボランティアなどと繋がり、新たな経験を積める機会の創出。
- ・個々の障害特性、強みを生かした新たなプログラムの創出と活躍の場の提供。
- ・OJTから引き続きTALを通して人を育みあう意識をもって事業遂行。
- ・デイメンバーの2次障害による重度化、高齢化による問題、課題の整理、情報共有と関係機関と連携した支援。

自立生活体験室

I. 総括

社会的な行動制限が緩和されたことで施設入所者や在宅で外出が制限されていた方が少しずつ動き出したこと、自立生活体験室サマリアハウスとしても部屋数を増やしたことや、法人内他部署及び大学等との連携をすることで、より多くの方に自立生活を実現するための第一歩を提供することができました。

II. 事業の実施状況

1. 令和3年度の目標達成のための具体的な行動

- ①施設・親元等からの自立生活を実現するための第一歩となる体験の場を提供します。
 - ・愛知県より地域生活体験モデル事業を受託し、障害当事者コーディネーターと介助者の財源を確保できたことで、障害や環境が多様な当事者24名(延べ41回)に対し体験を実施することができました。
 - ・延389日の利用実績があり、体験利用者2名が福祉ホームに入居しました。利用日数の大幅増について、昨年度からの愛知県地域生活体験モデル事業受託にともない事業普及が進んできたこと、福祉ホーム入居を見据えた比較的長期の体験を複数回おこなうケースがあり対応することができました。
 - ・法人内事業所との週1回のミーティングや他事業所の就労体験、中京大学の伊藤葉子ゼミ生の介助実習(インターン)の受け入れを行うなどして介助体制を整えました。
 - ・四季体験プログラムを企画していましたが、コロナ禍により実施することができませんでした。
- ②関係機関への訪問による本事業の必要性と重要性を伝え、連携を強化します。
 - ・愛知県内の入所施設、知的障害者の保護者の会などに対して、出前講座(出張説明会)を延10回実施しました。当事者と支援者からの利用の問い合わせが22件あり、9名から利用申込みがありました。
 - ・本人向けの地域移行ガイドブックを作成し、愛知県内の市町村役場、及び障害者支援施設、約140か所に配布しました。
- ③次世代移行プロジェクトのテーマ「人を育む」を実現するため、課題を整理し解決するために取り組みます。
 - ・福祉ホーム入退去者、並びにデイセンター利用者がより活躍できるように、愛知県地域生活体験モデル事業以外でも、謝礼金を支給できるような仕組みに変更しました。今年度は12名、延25回の実績となりました。
 - ・本事業の事務書類の手続きや利用に向けた調整業務を誰でも行える取り組みとして、マニュアルを整備しました。

2. 年間利用実績内訳

| 区分 | 実人員 | | | 小計 | 延日数 | | | 小計 | 実施件数 | | | 小計 |
|------|-----|----|----|----|-----|----|----|-----|------|----|----|----|
| | 市内 | 県内 | 県外 | | 市内 | 県内 | 県外 | | 市内 | 県内 | 県外 | |
| 在宅 | 6 | 14 | 2 | 22 | 198 | 98 | 67 | 363 | 7 | 19 | 11 | 37 |
| 施設入所 | 2 | 0 | 0 | 2 | 26 | 0 | 0 | 26 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 計 | 8 | 14 | 2 | 24 | 224 | 98 | 67 | 389 | 11 | 19 | 11 | 41 |

III. 継続課題

- ・愛知県内施設入所者のための財源の不足
- ・ロールモデルとなる若手障害当事者の育成

マイライフ

I. 総括

重度化・高齢化の影響による利用状況の変化から、支援の在り方が大きく変化した1年となり、利用時間数も大きく減少しました。6名(男女合わせて)の利用者が病気や体調の変化等で長期(緊急的)入院されましたが、新型コロナウイルスの影響により院内での支援を制限されました。学生登録ヘルパーの減少、また登録ヘルパーの高齢化等深刻な人材不足もあり、利用者の希望に十分応えることが出来ませんでした。利用者・スタッフ共に新型コロナウイルス感染症陽性者が続出し派遣体制が逼迫しましたが、PPE着用等感染対策をとりながら継続した支援体制確保に努めました。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

①他部署と連携し、新たに地域移行を目指す障害者を支援します。

- ・地域生活体験モデル事業 出前講座：3回
- ・体験室利用者の介助方法の検討・介助者手配 体験室利用者：10名、介助者：35名
- ・体験室利用後の福祉ホーム入居者：1名

②障害の重度化及び高齢化に伴う制度の変更が生じて、障害者が望む住み慣れた地域で生活し続けていくことができるよう支援します。

- ・吸引等が必要となった利用者の支援継続の為、喀痰吸引等第3号研修を実施しました。
- ・二次障害の理解を深める機会として利用者1名を医療相談(万歳先生)へと繋げました。
- ・障害状況や環境変化があった利用者に対し、相談支援や医療機関との各関係機関と担当者会議を頻繁に行ったことにより、関係機関との連携強化に繋がりました。
- ・利用者との意見交換の機会として利用者懇談会を2回実施し、計19名の利用者の参加があり、今の生活に何を求めているかを聞く機会となりました。
- ・人材を確保するための具体的な行動目標と数値目標に対する成果は以下の通りです。

| 行動目標 | 数値目標 | 成果 |
|------------|---------------|---------------------------------------|
| 授業アピール | 25回 | 49回 |
| オンライン交流会 | 12回 | 6回 参加者11名 内、重度訪問介護従業者養成研修受講3名 |
| 新規登録ヘルパー獲得 | 男性：40名、女性：50名 | 男性：14名、女性：39名 内、既存ヘルパー等の紹介(人づて)16名 |

- ・新たな人材確保として、名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター「生活困窮者就労訓練事業」への事業所登録を行いました。
 - ・デイ利用者や講師派遣の当事者と一緒に授業アピール外の学校や地域でのチラシ配りを行いました。
- ③次世代移行プロジェクトのテーマ「人を育む」を実現するため、課題を整理し解決するために取り組みます。
- ・授業アピール等において対面からオンラインの変化への環境整備や当事者講師の養成を行いました。
 - ・新人職員の育成はOJTの取り組みを用いたことにより「教える」ことの意識改革やコミュニケーションの活性化は出来ましたが、部署全体に「人を育む」風土を根付かせるまでには至りませんでした。

2. 派遣時間数前年度対比と目標達成率（令和4年度目標 200,000時間）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
|-------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|
| 令和3年度 | 16,133.8 | 16,399.3 | 15,967.8 | 16,620.5 | 16,453.3 | 15,609.3 | |
| 令和4年度 | 15,161.0 | 15,418.5 | 15,042.3 | 15,306.0 | 15,173.0 | 15,164.3 | |
| 目標達成率 | 7.6% | 15.3% | 22.8% | 30.4% | 38.0% | 46.0% | |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 令和3年度 | 16,504.5 | 15,843.5 | 16,425.5 | 15,926.8 | 14,591.5 | 15,677.9 | 192,153.7 |
| 令和4年度 | 15,675.8 | 14,847.0 | 14,584.0 | 13,842.3 | 12,536.5 | 13,692.5 | 176,443.2 |
| 目標達成率 | 53.5% | 60.9% | 68.2% | 75.1% | 81.4% | 88.2% | |

※時間数は障害福祉サービス・介護保険法サービス合算です。

Ⅲ. 継続課題

- ・地域移行を目指す当事者の発掘・支援体制づくり
- ・障害の重度・高齢化により人工呼吸器装着となった利用者2名の退院後の支援体制確立
- ・令和5年度から始まるAJU自立の家の新たな教育体制「TAL」を活用し、部署全体に「人を育む」意識を根付かせ、事業計画が遂行できる人材の育成
- ・新規ヘルパー獲得目標 60名（女性：30名 男性：30名）
 - ・災害時・感染症蔓延防止における事業継続計画(BCP)(令和6年度義務化)の完成

ヘルパー養成事業 総括

1. 新型コロナウイルス感染対策及び法令を順守し、安心安全な重度訪問介護従業者養成研修を実施します。
 - ・講座開講日の受講生の体調に留意し、密を避け、検温・消毒・換気の徹底等感染対策を講じて、年間計画沿った講座の実施を行いました。
2. 重度訪問講座は130人を養成します。
 - ・延べ12回開講し、85名養成しました。
3. 喀痰吸引等第3号研修の定期的な実施及びホームヘルパー現任研修を開催します。
 - ・喀痰吸引等第3号研修を3回実施し21名を養成しました。
 - ・ホームヘルパー現任研修を11月19日、26日、12月3日にオンラインにより開催し、14名に名古屋市発行の修了証を発行しました。

マイライフ西

I. 総括

マイライフ刈谷の閉所に合わせ、9名のヘルパー派遣における利用者の移行を行いました。倍増する派遣時間に対応するため、3名の異動職員、4名の新規職員、嘱託職員の雇用を行い、利用者の生活の影響を最小限にとどめることができ、年度末には安定した支援を行うことができました。

地域移行の実績として、1名の高浜市在住当事者をサマリア、マイライフ、生活塾へ協力いただきながら12月には福祉ホームへの入居に繋ぎ、ヘルパー派遣を行っています。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

①新規当事者の発掘と当事者リーダーの育成をします。

- ・体験室利用を経た福祉ホーム入居者 1名
- ・モデル事業啓発のための外部訪問 延べ2回 出前講座3回
- ・モデル事業実施者 1名
- ・重度訪問介護従事者養成研修の現地研修依頼において、生活塾スタッフ4名に向けた重度訪問介護に関する勉強会を2回実施。制度、資格に関する理解を深めることができました。
- ・福祉実践教室において当事者スタッフへの引継ぎ完了し、生活塾へ主軸を移行できました。

②事務所の移転と部署統合における経営や運営体制が安定するよう努めます。

- ・安定した運営のための女性職員1名、男性嘱託1名雇用しました。次年度さらに男性嘱託1名雇用を予定しさらなる運営の安定を進めます。
- ・障害者の地域生活を支えるヘルパー確保目標44名（男性24名、女性20名）に対しては、新規登録者数36名（男性21名、女性15名）と人数では届きませんでした。嘱託及び職員の確保により補えています。

【学生向け】学生交流会 4回（内対面1回） 授業アピール12回 卒業生を祝う会 1回

【マイライフと共催】オンライン説明会 3回

③人を育成できる人材作りを進め、職員の業務の精査と全体のバランスを整えます。

- ・OJTの活用を行い、所長との面談を全職員、嘱託に向けて行いました。事業の方向性、人材育成において各スタッフに求めることなどを伝え、目的目標を同一にし、人材育成の基盤を整えました。
- ・医療的ケアを必要とする、地域生活を送る当事者への支援継続のため、6名の喀痰吸引3号研修の受講を実施しました。

2. 派遣時間数前年度対比と目標達成率（2022年度目標 82,400時間）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2021年度 | 3,530.0 | 3,648.0 | 3,476.0 | 3,680.0 | 3,611.8 | 3,536.5 | |
| 2022年度 | 6,834.3 | 6,966.0 | 6,846.0 | 6,914.5 | 6,161.5 | 6,067.0 | |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 2021年度 | 3663.3 | 3492.5 | 3563.5 | 3484.5 | 3176.8 | 3462.0 | 42324.8 |
| 2022年度 | 6388.0 | 6100.0 | 6656.0 | 6543.5 | 6133.5 | 6800.5 | 78410.8 |

新規利用契約者 10名（4月、7月、12月） 利用解約者 1名（12月）

7/26に起こった体調不良により入院、療養していた男性利用者1名、12/26に永眠されました。

3. マイライフオリエンテーション（マイライフ・マイライフ西共通）

4月～3月受講者：82名 内容：基礎的な知識と技術を身につける講座 ※Web、DVD 受講にて実施。

Ⅲ. 継続課題

- ・ヘルパー確保目標 44名（男性：24名 女性：20名）
- ・利用者個々に合わせた支援体制づくり（障害の進行、加齢等）
- ・広域なサービス利用に対応する合理的な取り組み。
- ・事業所としての未来をイメージした体制、拠点整備。
- ・自立生活を希望する当事者の支援に向けた生活塾との連携。

自立生活情報センター サポートJ

I. 総括

新たな地活としての「気楽なサロン」は、適時の懇談・勉強会と年間5回のお出かけ企画も達成でき、コロナ禍ながら前進はしました。新しい当事者の交流により「お悩み相談」「CIL 見学報告会」など、今までになかった切磋琢磨の機会も増えました。当事者との事業所見学の繋がりから大きな講演会の講師など含めて、それぞれも講話の「内容の向上」にも取り組みました。小中学校の福祉実践教室も長年変化がなかったが社会福祉協議会などとも連携して、僅かながら内容を変えました。

II. 事業の実施状況

1. 令和3年度の目標達成のための具体的な行動

- ①派遣講師を増やし、将来実働する人材を育てていきます
 - ・新たに2名の方と講師契約し、実習生の対応にあたってもらいました。
 - ・福祉実践教室の講師も1名を4回ほど見学研修し、一人立ちに至りました。
- ②講師のスキルアップを目的とした勉強会の開催
 - ・毎月2～3回は開催できそれぞれの学びと、仲間同士のつながりも進みました。
- ③地活本来の目標も定めながら、絡んでの次世代移行プロジェクトのテーマ「人を育む」を実現するため、課題を整理し解決するために取り組みます。
 - ・上記に加え、講師派遣協同MTでも部署間での連携による「人材育成」の取り組みも僅かながら進むことができました。

2. 講師派遣数と勉強会数

| | 講師派遣数 | 勉強会 | 受講者数 | | 講師派遣数 | 勉強会 | 受講者数 |
|----|-------|-----|------|-----|-------|-----|------|
| 4月 | 3 | 6 | 17 | 10月 | 16 | 7 | 13 |
| 5月 | 18 | 4 | 11 | 11月 | 22 | 6 | 122 |
| 6月 | 11 | 7 | 43 | 12月 | 21 | 6 | 99 |
| 7月 | 5 | 6 | 74 | 1月 | 3 | 4 | 213 |
| 8月 | 9 | 3 | 7 | 2月 | 14 | 4 | 262 |
| 9月 | 34 | 1 | 10 | 3月 | 3 | 1 | 44 |
| 計 | 80 | 27 | 162 | 計 | 79 | 28 | 753 |

III. 継続課題

○派遣講師の育成

- ・勉強会の内容の見直しと、個別の勉強会を増やしていく。
- ・外部連携やお出かけ企画なども増やし、仲間のつながりと切磋琢磨の機会を創る。

わだちコンピュータハウス

I. 総括

令和4年度は、生産活動ではUD業務を中心に随意契約の仕事も多く受注することができ、予想以上の収益を得ることができました。若手所員を中心に新しい業務を創出することを目的に発足したプロジェクト等、新しい取組みも始動しており、この動きを次年度以降いかに伸長するかが、わだちの今後にかかっていると考えています。

施設運営面では新規所員1名の入所を受け入れた反面、5名の方が退所されました。また、高齢期や二次障害など体調不良を訴える所員が長期療養するなどあり、利用は余り延びませんでした。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

- ①所員・スタッフが丸となり、自分達の強みを生かせる業務を着実かつ積極的に受注し遂行します
（「2. 事業の達成状況」(1) 参照）
 - ・8月に名古屋市障害者基礎調査・福祉サービス利用者調査受注することが出来ました。前回より調査から納期までの期間が短いため、効率よく業務が進められるよう工夫しました。
 - ・9月に名古屋市バリアフリー情報発信サイトの事務局運営にかかる業務について、10/1から半年の随意契約を結ぶことができました。その後は単年度の契約更新になる予定で、しばらくは売上の柱になっていくので、体制を整えていきます。
 - ・UD関連業務について、12月にセントレアやジブリパーク、名古屋駅など4件問い合わせがありました。各社と打合せを行い、うち3件を4年度中に実施しました。UDはわだちの強みを生かせる業務であるため、業務に関わるスタッフ・所員の増員を進めていく検討をしています。
 - ・1月～2月に実施したJICA中部「障害者就労促進研修」は500万円で契約を取り交わし、わだち内部の人間も講師や事務局スタッフとして、総出で業務を請け負いました。
 - ・上記の努力も実り令和4年度の売上高は7,256万円（目標達成率125.5%）でした。
- ②中長期的に安定した施設運営ができるよう、適正な収入確保と経費支出に取り組んでいきます
（「2. 事業の達成状況」(2) 参照）
 - ・7月より、男性所員が一名新規利用に結びつきました。プログラマーとしてのキャリアのある方なので、システム開発等で力を発揮してもらおうことを考えています。
 - ・所員が一名、体調不良から入院して、そのまま亡くなりました。ほかにも、二名が長期入院から利用が滞っております。
 - ・三名が長期休業から解約になってしまいました。生産活動に限定せず、所員と生活面での聞き取りの重要性を実感しました。
 - ・精神障害の方を中心に、新規の問い合わせが多数ありました。今までにない新しい利用意向者をどうやって受け止めていくかが今後の課題です。
- ③所員一人ひとりが、自分に合ったワークライフバランスが取れるようにフォローしていきます
 - ・コロナの感染拡大に伴い、在宅就労希望者が増えました。行政と調整して、本人たちが安心して仕事に取り組める環境づくりに努めました。

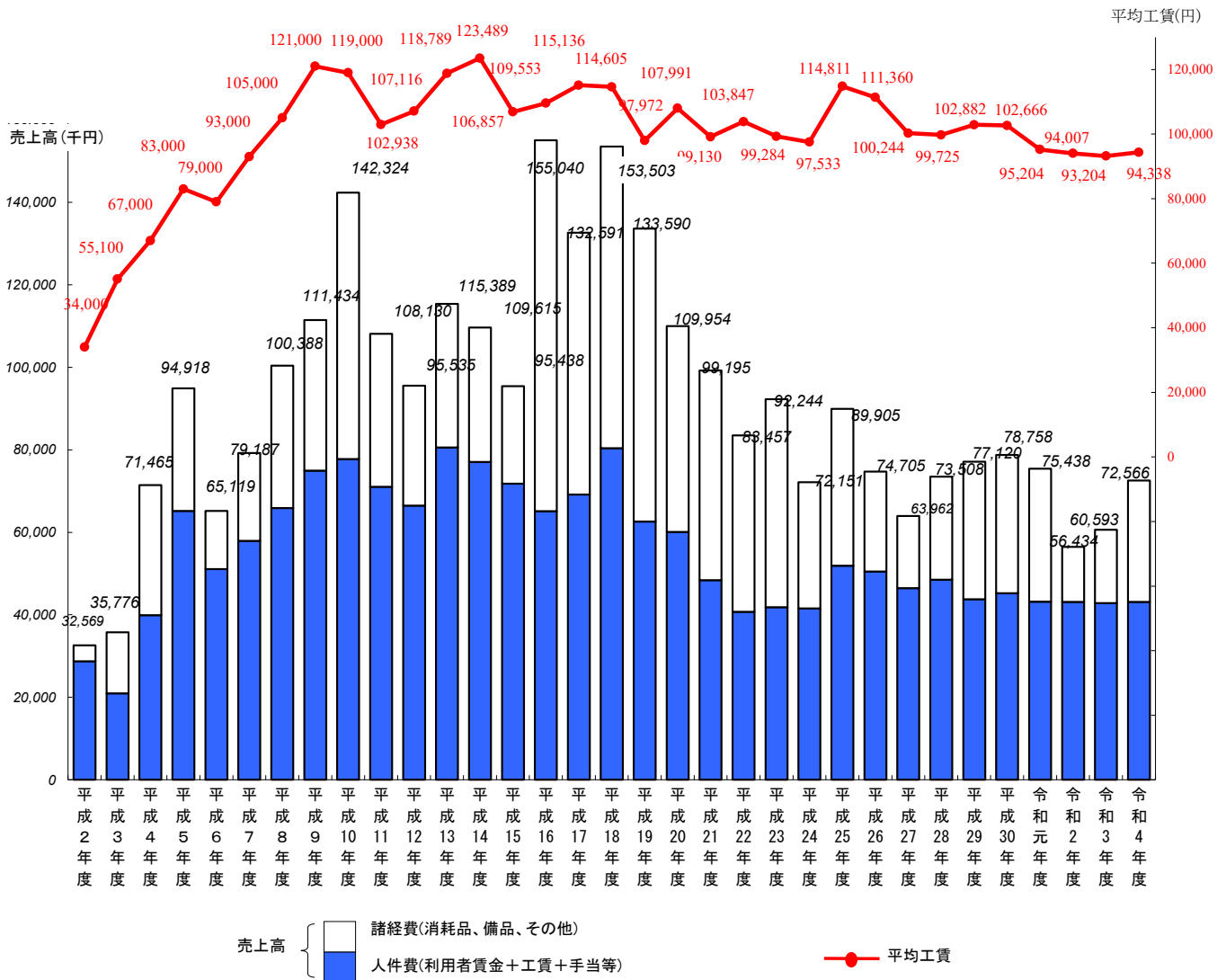
- ・障害が進んできている所員の方に対して、聞き取りを行い介助体勢等の見直しや必要な日常生活用具等の設置を検討（トイレの呼び出しブザーやリフトのスリングの検討）しました。

④将来のわだち（自立の家）を支えていける次世代の人材育成に取り組んでいきます

- ・わだちの20代、30代のメンバーが中心に立ち上がった「MIRAIプロジェクト」が中心になり、動画撮影、講師派遣など、新しい業務を積極的に開拓しました。
- ・同プロジェクトは、他部署との交流会やわだちの歴史を先輩所員から聞く企画の立案・実行し、わだち内で新しい取り組みにチャレンジしています。

2. 事業の達成状況

(1) 売上高と平均工賃



(2) 利用実績

延べ人数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 月平均 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 就労A型 | 159 | 141 | 162 | 158 | 143 | 155 | 159 | 160 | 154 | 137 | 142 | 159 | 1,829 | 152.4 |
| 就労B型 | 394 | 385 | 420 | 378 | 317 | 372 | 385 | 361 | 355 | 313 | 332 | 367 | 4,379 | 364.9 |
| 生活介護 | 111 | 92 | 118 | 97 | 82 | 107 | 105 | 99 | 93 | 65 | 51 | 77 | 1,097 | 91.4 |
| 計 | 664 | 618 | 700 | 633 | 542 | 634 | 649 | 620 | 602 | 515 | 525 | 603 | 7,305 | 608.8 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 開所日 | 25 | 22 | 26 | 25 | 20 | 24 | 25 | 24 | 24 | 21 | 22 | 26 | 284 | 23.7 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|

一日あたりの平均利用者

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 月平均 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 就労A型 | 6.4 | 6.4 | 6.2 | 6.3 | 7.2 | 6.5 | 6.4 | 6.7 | 6.4 | 6.5 | 6.5 | 6.1 | 6.5 |
| 就労B型 | 15.8 | 17.5 | 16.2 | 15.1 | 15.9 | 15.5 | 15.4 | 15.0 | 14.8 | 14.9 | 15.1 | 14.1 | 15.4 |
| 生活介護 | 4.4 | 4.2 | 4.5 | 3.9 | 4.1 | 4.5 | 4.2 | 4.1 | 3.9 | 3.1 | 2.3 | 3.0 | 3.8 |
| 計 | 26.6 | 28.1 | 26.9 | 25.3 | 27.1 | 26.4 | 26.0 | 25.8 | 25.1 | 24.5 | 23.9 | 23.2 | 25.7 |

Ⅲ. 継続課題

- ・UDや講師派遣など、わだちが強みとする業務が担える人材の発掘・育成
- ・新規事業の創出
- ・在宅就労のルール化
- ・高齢期の所員および障害が重度化した所員へのフォロー

ピア名古屋

I. 総括

自身の生活スタイルが大きく変わった方が多数みえて、ピア名古屋においても医療的ケアができる環境整備、身体的リハビリや食事の摂取方法の見直しの提案をするなど、より生活支援に重点をおいた年となりました。一方、運営面においては入院や自宅静養のため利用日数が減少。福祉用具売上においても今年度の目標値近くまで業績は伸ばせたものの、世界的な材料費高騰により商品の仕入にかかるコストも増加傾向にあり、次年度以降の売上はこれまで以上に注力が必要な状況だと捉えています。

II. 事業の実施状況

(1) 仲間の高齢化、2次障害や生活環境の変化に合わせ、『日中の居場所』としての役割を見出す

- ① 日々のコミュニケーションを通じて、仲間から真のニーズをキャッチし、親（支援者）なき後、障害の重度化、生活環境の変化など、中長期的な生活を想定した個別支援の検討を定期的に行い、迅速に対応できるよう準備を整えていく
 - ・週次単位で仲間の様子を共有するミーティングにした事で、コミュニケーションの活性化と「気づき」への意識を高めることができました。
 - ・医療的ケアが必要となった仲間の退院からリハビリによるサマリアでの体験室を経て、在宅復帰に向けた支援までを他部署と連携して行い、本人の希望通り通所を再開することができました。
- ② 家族・支援者との関係づくりを強化し、本人からは得られない情報や、家族・支援者だからできる精神面・金銭面・意思決定などの協力関係を築き、包括的な支援体制を構築する
 - ・行動目的を意識したことにより、コロナ禍における自主休業やその後の通常開所に戻す際の伝達、家族からのニーズ、仕事に対する不安など、重要な情報を家族や関係機関に迅速かつ差異なく伝えることで、仲間の生活リズムに沿った支援を進めることができました。

(2) 働く場として、仲間に合わせて役割をPDCAサイクルによって提供し続ける

- ① 事務作業を入力とチェック部門にわけること、より個別性の高い作業内容習得の機会を作り、仲間同士で教え合える体制を築く
 - ・継続している作業をベースに事務作業を部門分けすることで、チェック機能を果たすだけでなく、仲間同士が正確に業務に取り組む仕組みづくりと仲間の「意識づけ」ができました。
- ② 作業に対する向き不向きをすぐに判断することなく、少なくとも四半期に1回は仕事に対するモニタリングを実施し、必要に応じてマニュアルの作成や教え方に配慮を加えるなど、個人に合った方法で仕事を覚えてもらう
 - ・仲間の活動状況をスタッフが再認識するため、期間を設けて新しい作業を担ってもらい、適宜モニタリングを実施することで作業練度が向上するとともに、仲間の強みに合わせた役割を提供しつづけることができました。
 - ・スタッフ1名の退職に伴う事務作業の分担において、スタッフがすべてを引き継ぐのではなく、仲間ができる作業は引き継いでもらうことで、活動に対する意欲向上につながりました。

(3) コミュニケーションに対する意識を持ち、継続実行していくことで教育システムの構築を目指す

- ① OJTへの取り組みや会議、日々の会話の中でもキャリアにとらわれることなく、互いが指導し合える関係性作りと積極的なコミュニケーションを実践していく

- ・毎朝行われる日報の時間をしっかり活用して、前日の仲間の様子、当日の行動予定、休日に問い合わせがあった件など些細なことでも情報共有を重ねていきました。
- ・コロナ発生時の対応において、これまで固定の職員が担っていたため、OJT 手法を用いて名古屋市への一報や関係各位への報連相を実践し、他の職員でも対応できるようにしました。
- ・男性スタッフの褥瘡による休職（7月～10月）、女性スタッフの退職（1月）と体制に変更がありましたが、他スタッフと仲間が役割分担と業務の進捗確認を密におこなったことで、困難な状況ではあったものの、何とか乗り越えることができました。

（４）健全な事業運営を目指し、常に安定した支援を仲間に提供することができるようにする

- ①週1回利用の仲間へアプローチし、ニーズに沿ったサービス提供を基本としながら、年間延べ利用日数（目標40日増）を目指す
 - ・週1回利用の仲間から利用日数増の希望があり、本人を含めた関係機関と話し合いを重ね、隔週水曜日で利用を増やしました。
- ②ピア名古屋に興味のある新規の障害当事者を紹介してもらい、利用につなげる（目標：週1回利用2名）
 - ・再利用の相談のあった方と契約。6月より週2回の利用を開始しました。
 - ・車いす修理や解体ができる方が3日間の体験実習ののち、1月から利用を開始しました。
- ③コロナ禍で控えていた営業（ルート・新規共に）を再開し、福祉用具販売の増収を追求する
 - ・年度当初より、仲間が中心となってわだちコンピュータハウスとサマリアハウスのルート営業、公共施設への車いすメンテナンスの営業を開始し、何件かの受注につながりました。

【利用状況】

| | 開所日 | 登録者数 | 来所のべ人数 | 平均利用者数 | 給食サービス |
|-------|------|------|--------|--------|--------|
| 年間合計 | 291日 | 18名 | 2167人 | 7.4名 | 1165食 |
| 昨年度実績 | 290日 | 16名 | 2253人 | 7.7名 | 982食 |

【施設収入、福祉用具売上、工賃支払一覧】

| | 今年度実績 | 目標金額 | 達成率 | 昨年度実績 | 前年比 |
|--------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------|
| 介護給付費等補助金 | 29,073,294円 | 29,500,000円 | 98.5% | 31,016,022円 | 93.7% |
| 重度心身障害者受入補助金 | 6,989,728円 | 6,700,000円 | 104.3% | 7,353,000円 | 95% |
| 福祉用具売上額 | 42,318,764円 | 43,340,500円 | 97.6% | 43,938,548円 | 96.3% |
| 工賃支払額 | 6,064,051円 | 6,277,000円 | 96.6% | 6,360,126円 | 95.3% |

※工賃支払額については、仲間の長期休み等による活動日数減少にともない日割り計算による支払をおこなったため、支払総額も減少しています。

Ⅲ．継続課題

- ・これまで長くピア名古屋で活動をしてきた仲間が、加齢に伴う障害の重度化や医療的ケアが必要になった際の人的支援を含めた環境の整備。
- ・上記課題に伴う利用日数の減少や、体調不良による欠席が続くことによる障害福祉サービス費減少への対策。
- ・福祉用具各メーカーからの販売価格改定（値上げ）による商品仕入れコストの増加。

小牧ワイナリー

I. 総括

所員 3 名が増加（若干ですが、施設収入も増加）しました。目標とした所員 4 名の増加には至らず、本人事由により所員（男性 1 名、女性 2 名）が退所しました。

新型コロナウイルス感染症の影響による来客数の減少は、感染対策の緩和により来客数の増加、喫茶の再開、イベント開催を復活し、売上向上に繋がりました。生産活動（葡萄栽培、ワイン醸造）における方向性や改善策についても対策を施しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和 4 年度の目標達成のための具体的な行動

①-1 生産力の向上を図る改善点（病害対策、獣害対策）を克服

①-3 仲間の畑作業の更なる向上、健全な葡萄栽培を全員で取り組む

- 収量は小牧=6.0t、多治見=1.5t。小牧は樹木の生長（樹齢）や病害対策（副梢管理、農薬散布、等）に伴い、急激な減少を抑える事が出来た一面がありました。
- 樹木の健全な生長を図る為、余分な芽や病害発生の恐れのある弱い芽を欠く作業、除草作業、つる切り、花穂調整、花かす除去、誘引作業、副梢管理、摘粒、等々に多くの時間を費やしました。
- 病害対策の農薬散布（10~14 日間に 1 回の間隔、合計 10 回）、及び、「笠掛け」「袋掛け」（雨除け、日除け）を実施（約 3 万枚を作業）。鳥獣害対策として、防鳥ネット張り、電気柵を設置（ワイナリー北側圃場、約 2,000 m²）。電気柵の効果で畑の中まで害獣に侵入される事が無くなり、被害の軽減に繋がりました。
- 多治見は樹木の多くが古木の為、収量安定が難しく、猛暑や秋雨によって病害が起こり、収量が減少しました。古木更新の為、葡萄樹を数本抜根し、苗木の新規購入し病害に強い葡萄樹を目指します。

①-3 人的支援依頼（ボランティア募集）に努める

- ボランティア募集した結果、AJU 内（総勢 23 名）、外部支援者（総勢 18 名）が集まりました。

①-4 多治見圃場の作業時間の確保、作業効率の向上を目指す

- 多治見圃場では、週末を利用して多治見修道院の研修センター（ログハウス）に宿泊して、夕方や朝方の涼しい時間帯に作業を行い、作業時間の確保、作業効率の向上に努めました。現地では昼食を取る行動は取らず、限られた時間の中で作業に集中する事にしました。

②-1 外部の専門家から醸造技術指導を受け、醸造技術と品質向上、生産性の安定を目指す

- 生産者に対する勉強会やワイン会に参加。近年の葡萄栽培における高温や多雨による着色の影響、醸し醸造期間の傾向、生産者（専門家）と葡萄品種の知識や傾向、醸造技術、品種特性の情報交換を図り学びました。
- 新商品（2021 年産）の小牧城信長／赤・ロゼ・白のワインについて、美味しくなったと評価し

ていただく声もありました。

- 昨年度の健全な葡萄栽培、収穫後の腐敗果や未熟果の選果作業、健全な発酵を促す、といった取り組みが、少しずつですが出来上がったワインの品質、改善の気配を実感。
- 今季の醸造も、新たに取り組んだ改善点（香り、味わいの品質向上、等）として、不快な香りを抑制してくれる発酵助成剤（栄養剤）の使用、葡萄本来の香りや味わいを引き出してくれる新規の発酵酵母の添加を使用。
- しかし、葡萄由来の香りが弱い一面もあり、経過観察と要因を探り、今後の生産方針の検討が必要となりました。
- 年間を通して、仲間と一緒に醸造（葡萄の破碎作業、瓶詰め作業、ラベル貼り作業）を実施。

②-2 醸造方法の数値化だけでなく、文章化も視野に入れてワイン造りに活かす為の資料作成を図る

②-3 年間醸造計画を作成し、ワイン造りやスケジュール感を全員で共有する

②-4 醸造をチームで行う体制や組織内でワイン造り、醸造の情報共有を図り、品質向上に努める

③-1 消費者に満足感を提供できる商品開発、生産者の想いが伝わるワイン造りに取り組む。

- 今年度は、外部からの原料葡萄購入を再開しました（約 5.8t を購入）。今後の商品種類の拡充に繋がります。

③-2 特長ある商品生産（甘口、樽仕込み）にも挑戦する。

- 今後の商品開発の一つとして、オレンジワインの醸造方法にも挑戦しました。

③-3 消費者にとって魅力的な商品デザインを追求して、商品付加価値の向上に努める。

- 小牧醸造ワインと輸入ワインの混醸した商品を準備、所員の描いたイラストをラベルデザインに採用した「PEER WINE」の再販売を実施。
- 愛知県工賃向上推進研修を受講。商品、サービスの特長（強み）を整理、表現した上で、マーケティング戦略に取り掛かる事、どのような消費者に、どのような商品を販売したいのか、明確な方向性を模索すると良い、というアドバイスを受けた為、そういった視点からも今後の商品開発、想いの伝わるサービスの特長についても考えていきます。

④-1 満足感、季節感を感じられる喫茶メニューの開発や提供、商品の充実

- 喫茶では土日祝日限定ですが、パスタランチを再開して、メニューの拡充を図りました。Xmas 期間は特別な Xmas ランチを実施。地域の方々や常連のお客様が、ゆっくり滞在しながら利用していただきました（総勢=約 50 名）。

④-2 魅力的な商品案内（POP、陳列、レイアウト）に取り組みながら、また訪れたいと思う身近なワイナリーを目指す。

④-3 ショップカフェ年間計画に基づき、準備等余裕を持ったスケジュール感を大切にして季節催事、外部出店を実施し、地域の方々や来店者の増加を目指した店舗運営を図る。

- 春の葡萄酒まつり（5月3日・4日・5日）を3年振りに開催。地域の皆様の応援、小牧市の後援を基に県のガイドラインに沿って実施。3日間で約 1,200 名のお客様が来場、売上は約 235 万円でした。3年振りのイベント開催の為、事前準備や当日の動き、等において不安な一面もありましたが、開催が出来る喜びに溢れ、仲間たちのモチベーションも上がって、活気のある 3 日

間となりました。

- 秋の収穫祭（9月23日）、AJU ワインフェスタ in 多治見修道院（11月3日）も3年振りに開催。開催の目的、企画設定、規模縮小、収支収益率、等々にも一新を図りながら開催しました。
- 店舗ではGWセール、母の日フェア、父の日フェア、サマーギフト（御中元）、ハロウィンフェア、Xmasフェア、ウィンターギフト（御歳暮、Xmasギフト）バレンタインフェア、ホワイトデーフェア、桜フェアの季節催事を実施しました。
- 外部のイベント催事へ積極的に参加して出張販売しました（合計22件の催事に参加）。飲食事業を展開している小牧市内の福祉事業所の視察も行き、ワイナリーのカフェ運営も活かしていきます。

④-4MTを通して振り返りやPDCAに努める。

- 隔週のMTを通して振り返りも実施中。

⑤-1新HPを完成させ、内容の充実や来店者数の増加を図る。

- 新HPを完成させました。閲覧者に満足感、充実度を高く感じられるHPを目指して、事業内容や様々な想い、商品の充実、及び、魅力的な商品案内に取り組みながら、もっと知りたい、行ってみたい、購入してみたい、働きたい（通所したい）、と思えるような事業の強みを情報発信して、売上の向上にも繋がります。

⑤-2週2回のSNS更新を目標として、様々なワイナリー情報（圃場、醸造、店舗、仲間）の周知、及び、商品の魅力や特徴を積極的に発信して、販売の向上に努める。

- 樹の会会員様、販売先顧客（個人、企業、団体、等）、各種取引先へ「葡萄酒まつり開催」「御中元（サマーギフト）」「秋の収穫祭」「AJU ワインフェスタ」「御歳暮（ウィンターギフト）」のDM郵送（各回約700件）。

⑥-1仲間が屋内外の作業において、安定して、主体的に取り組める支援体制や環境に努める

- 見守りや声掛けが必要な所員は、スタッフが付き添いしながら、作業を実施。

⑥-2MTを通して仲間の状況を共有し、個別支援計画の支援内容、就労意欲、責任感の向上、個々の可能性を模索する

- 個別支援計画を基に個々の状況を職員MTでスタッフ間と共有。所員と一緒に作業する際の情報の一つとしました。

⑥-3感染症対策、熱射病や脱水対策、食事管理を通して、事故や病気を未然に防ぐ支援に努める

- 所員の健康把握の為、地域の医療機関を利用しながら健康診断を実施。
- 猛暑日が連続する際は、畑作業は午前までの短時間作業。午後は室内作業に変更して、仲間の熱射病対策や体調面の安全を考慮しました。

⑥-4家族や地域、支援学校や他事業所と連携を図り、様々なニーズを傾聴し、施設運営の健全化を目指す

- 近隣の支援学校の生徒や他事業所を通じて施設見学、体験実習を年間通して実施しました（合計、男性6名、女性3名）。

- 以前、利用していた（外部で就労した為、退所）女性から再就職先が見つからず、通所利用しながら生活のリズム、働く習慣が途切れないように整えつつ、再就職先を見つけていきたい意向を受入、利用を開始しました。その5ヶ月後、再就職先が見つかった為、退所。
- 一人暮らし体験を希望した所員（女性3名）が愛知県地域生活体験モデル事業（サマリアハウス）の体験室を利用しました。一人暮らし入居者からの話、体験室のスタッフと買い物や料理作りを経験。初めての事ばかりで疲れた様子も見られましたが、充実した、という声も上がり、進めて良かった一面でした。
- 私事事由の為、所員（男性1名、女性2名）が退所しました。3月末現在、所員34名にて稼働。

2. 事業の達成状況

・自立支援給付費収入

| 利用人数 | 開所日数 ／利用者出勤日数 | 平均 出勤日数 | 平均 利用者数 | 延べ利用者数 ／前年度比 |
|----------------------|------------------|------------|------------|---------------------|
| 就労継続支援 B 型 33.2 人 | 365 日 ／335 日 | 16.7 日 | 19.9 人 | 6,649 人 ／106.30% |
| 生活介護 4.0 人 | 268 日 ／268 日 | 12.8 日 | 2.3 人 | 615 人 ／103.54% |

| 自立支援給付費収入／前年度比 | 給食利用延べ人数 |
|-----------------------|----------|
| 53,772,848 円 / 99.84% | 6,284 人 |
| 7,676,378 円 / 107.51% | 572 人 |

・利用者の状況

利用者数 定員 40 人（生活介護 6 人／B 型 34 人）現員（生活介護 4 人／B 型 31 人）

工賃の支払額 工賃平均額

| 平均工賃額／前年度比 | 支払総額／前年度比 |
|--------------------|------------------------|
| 42,030 円 / 100.95% | 18,745,557 円 / 107.20% |

・ワイン等の売上状況

(1) 売上額 35,614,013 円（売上総額 36,501,956 円、値引等 -887,943 円）目標達成率 103.23%

店舗：カフェ・ショップでの対面販売 店舗外：電話・インターネットの通信販売、卸、催事等

| 合 計 (単位：円) | | ワイン | | |
|---------------|--------------|-----------|--------------|-------------|
| | | ピア | 小牧 | 輸入/その他 |
| 店舗／前年比 | 10,873,300 円 | 520 本 | 3,763 本 | 118 本 |
| | ／165.95% | 693,260 円 | 5,670,300 円 | 192,740 円 |
| 店外／前年比 | 24,740,713 円 | 550 本 | 9,904 本 | 847 本 |
| | ／146.97% | 777,146 円 | 13,939,206 円 | 2,015,865 円 |

| 合 計 (単位： 円) | 飲食・物販 | | | 会員特典 | 値引 |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|
| | お土産 | カフェ | その他 | | |
| 店舗 | 5,202 品 | 2,275 品 | 1,300 品 | 779 件 | 0 件 |
| | 2,938,511 円 | 1,256,120 円 | 338,831 円 | -216,462 円 | 0 円 |
| 店外 | 9,251 品 | 0 品 | 9,323 品 | 353 件 | 58 件 |
| | 3,748,619 円 | 0 円 | 4,931,358 円 | -166,051 円 | -505,430 円 |

(2) 年間売上目標に対する目標達成率 (単位：円)

| 合計売上額 ／前年度比 | 年間目標額 | 目標達成率 | 備 考 |
|----------------|--------------|---------|-------|
| 35,614,013 円 | 29,780,000 円 | 119.59% | 当初目標 |
| ／152.29% | 34,500,000 円 | 103.23% | 一次補正後 |

Ⅲ. 継続課題

- ・健全な葡萄栽培、美味しいワイン造りに取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す
- ・消費者に満足感を提供できるワインの商品開発に時間を確保して取り組み、特長ある商品を販売する
- ・魅力を発信するショップ、カフェ、外部出店を目指し、沢山のお客様に来てもらい、知ってもらう
- ・HP、SNS 等の情報充実を図り、ワイナリー情報の周知、及び、商品の魅力を積極的に発信する
- ・仲間と共に働く時間、チームワークと報・連・相を意識し、楽しく、幸せに働ける職場を目指す
- ・近隣の支援学校や行政、社会福祉協議会、他事業所、等との連携から利用者の増加を目指す

昭和区障害者基幹相談支援センター

I. 総括

取り組みの方向性は大きく変わっていませんが、令和3年度の反省を受け、4年度は各事業所や地域団体への挨拶回り、個別訪問をより具体的に計画性をもって行いました。新規事業所の開設時はもちろん、SNSで取り上げるイベントのチラシやMAPを配布するなどの「おみやげ」を設けては、計画にそれぞれ各自が足を運びました。ただし、当初から予定していた「子育て関連」等については年間を通して意識をもって取り組みましたが、ほかには下半期になると業務に追われ、月の目標が達成できない感は否めませんでした。また、計画相談では新規利用者の受入目標を設け、新たに地域移行支援のケースについても間口を拡げましたが、結果的に目標を達成するような新規の需要はありませんでした。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

- ①昭和区自立支援連絡協議会の各事業所との連携強化、個別問題の聞き取りを目的に、年間予定に合わせ計画を立て、訪問をします。
訪問で聞き取った情報をスタッフミーティングで共有し、協議会活動活性化に活かしていきます。我々の活動を知ってもらうためSNSを活用し情報発信をします。
 - ・協議会の年間計画に合わせ、集中して全事業所を回る期間と、それぞれの事業所を個別訪問、Instagramで紹介する『#基幹が行く!』を並行して行いました。集中月間は総会のご案内、ごちゃまぜスポーツの周知、また年度末には昭和区の事業所ガイドMAP、ガイドブックが完成し、順に配布を行いました。個別訪問では、放課後デイ、就労系、地活など計18回（#基幹が行く!）、その他防災訓練の様子などもインスタにアップしました。もちろん、基幹の日常もアップし続け、フォロワーも着実に増えていきました。
 - ・コロナ感染が一定の落ち着きを見せ、今年度は区民まつりが復活するなど、イベントや集合体を組むことができるようになりました。ポッチャ体験が思いのほか賑やかだったり、集会時にはおみやげとして授産製品をご用意したり、区民まつりでは全商品完売で終わるなど、事業所の協力に励まされた1年でした。
- ②区内不動産業者、子ども応援委員会等への挨拶回りをし、関係づくりを進めていきます。
 - ・不動産業者については、広く回るというよりは少数でも回数を重ねることで関係性を深めるようにしていくことが課題と感じました。子ども応援委員会もそうですが、学童保育、子ども食堂、親御さんがつながる場『iStep』への参加など、子育て関連には特に児童部会を担当するスタッフが意識して足を運び、顔つなぎができました。
- ③計画相談については、本年度新規受け入れ件数17件・年間計画相談総件数61件を目指します。
 - ・新規を13件受けましたが、解約が8件、トータル5件の増でした。解約の理由はフェローの卒業、病死、65歳介護保険移行、などです。年間計画相談件数は昨年比4件増でした。
 - ・地域移行支援については、入所支援施設からの地域移行を想定していましたが該当ケースはありませんでした。ただ入院生活が長引き、在宅に戻る際不安が残る方の計画相談をお受けしました。

2. 実績報告

1. 利用者数

| | 実人数 | 身体 | 重心 | 知的 | 精神 | 発達 | 高次脳 | 難病 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|
| 障害者 | 155 | 64 | 0 | 31 | 64 | 6 | 2 | 1 |
| 障害児 | 7 | 2 | 0 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 |

2. 相談件数

| 訪問 | 来所 | 調査 |
|------|------|-----|
| 1626 | 2574 | 290 |

3. 計画相談

| 契約者 | 計画 | 継続 |
|-----|----|-----|
| 51 | 54 | 142 |

4. 自立支援連絡協議会

| 部会 | 研修会等 | その他 |
|----|------|-----|
| 33 | 2 | 5 |

III. 継続課題

- ・協議会関連団体、事業所回りについては、今年度回り切れなかった分、課題など話し合えなかった事業所について次年度へ継続していきます。どうしても取り組みやすいところを回る傾向、スタッフ間でも意識の違いがみられるなどあったので、次年度は各自が目的意識をもって取り組んでいくことが課題です。
- ・地域団体、地元イベント等への参加も、継続して取り組みます。インフォーマル資源も意識し、相談者と地元をつなぐ橋渡しをすることで、他区と協同して市全体の地域課題として吸い上げることができます。
- ・経営健全化に向けては、引き続き積極的に新規、継続を受け、収入増を目指します。

【特定】相談支援事業所 サマリアハウス

I. 総括

令和4年度も当事者主体の原則に立ち、サービスの支給量の調整だけでなく、ご本人がイメージする将来や日常の中でのささやかな希望をききとり、具体化していくことを基本姿勢としました。訪問や電話相談の回数を意図的に増やしたり、ききとる時の姿勢に余裕をもつこと、先輩相談員に報告・相談をすることで見落としを回避するなど、各自が限られた時間の中で精一杯取り組み、毎月のミーティングで振り返りを行いました。中には課題の掘り起こしがご本人の意識とのギャップを生み、他の相談員・相談機関にチェンジすることもありました。新規のお問い合わせはできる限りお受けしてきましたが、制度移行などを理由とした解約も続いた年でした。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

(1) 主体性尊重を主眼にした計画づくりをしていきます。

①主体性尊重のために、「こだわり」「優先事項」「なりたい自分の姿」といった視点で本人・関係機関へ再度アセスメントをします。

②アセスメントの際は、話やすい環境や言葉選び、話し方の速度等に意識を向け、ご本人の思いや希望する生活を引き出します。

・入院中の治療の影響で、気管切開で人工呼吸器装着となり、栄養補給の手段について病院側から選択を迫られ、クローズドクエスチョンや表情やしぐさを読み取り、新たなコミュニケーションでの意思確認の時間を設けました。

・契約につながる前に数か月、将来の希望などお伺いしながら関係をつくり、契約につなげました。

・入浴の見守りや食べやすい食材を届けるなどのフォローをしながら、一人でもやれていることを言葉にして伝え続けました。

(2) 関係機関への周知徹底、意見聴取と情報共有をしていきます。

①関係機関とのパイプ役を自覚し、関係機関から出てきた意見を利用者にこまめに報告します。

②主体性尊重の観点から出た課題についても共有し、実現に向け役割分担を試みます。

③自立支援協議会にて目標年2回勉強会開催を提案・企画実行していきます。

・介護保険への移行において、本人の希望の聞き取りや関係機関へのこまめな報告を行い、使える制度が変わった後も本人の希望が維持できるように努めました。

・退院に向け、医療・福祉の役割分担や情報共有の場を設け、支援体制構築に向けての準備を整えました。

・緊急的な状況において、各関係機関と話し合いを重ねて支援体制を整えました。

・区の協議会では事例検討会や意見交換会へ参加しました。事例検討会では事例提供も行い、様々な意見をいただき、実際の支援に活かしました。

(3) 利用者の課題にマッチした学習や研修の機会を作っていきます。

①利用者1人1人につき、訪問回数を決めて実行していきます。訪問回数を把握することで傾向が見え、同時に課題も見えてくるため、訪問回数増につながることで、利用者への情報提供の機会を増やしていきます。

②事業所見学を増やし、情報提供の幅を広げます。

③アナウンスがあった研修だけでなく、知識の底上げを意識して自ら学びたい内容の研修を探し出し、研修への参加を増やします。多様な相談内容に対応します。

④利用者の課題や今後の生活にどう取り入れることができたか、研修の振り返りをします。

⑤1か月2名の利用者増を目指し、スキルアップを目指します。

- ・事業所の見学同行を通し、各事業所との関係づくりにつなげました。
- ・サービス導入前の生活環境の整備や行政手続きや単発的な支援は自ら（相談員）で対応する等、柔軟に対応しました。

・1か月2名の利用者増としてきましたが、毎月0名から最大5名、年間22名の新規契約という成果を出すことができました。ただし解約者が16名ありました。

・外部研修では、精神科医のセミナーや訪問看護制度や成年後見制度・依存症の治療と理解、8050問題、権利擁護と身元保証の研修に参加しました。また、対人援助技術研修・会話術の研修にも参加をし、苦手とする分野に特化した研修にも参加をしました。

2. 利用者数等の分布

①相談の手段

(前年度比 207 件減)

| | 身体 | 知的 | 精神 | 発達 | 難病 | 障害児 | 合計 |
|----|-------|-----|-------|-----|----|-----|-------|
| 電話 | 1,030 | 694 | 1,371 | 194 | 12 | 257 | 3,558 |
| 来所 | 115 | 53 | 46 | 6 | 0 | 9 | 229 |
| 訪問 | 430 | 231 | 558 | 85 | 7 | 118 | 1,429 |
| 合計 | 1,575 | 978 | 1,975 | 285 | 19 | 384 | 5,216 |

②支援内容

(前年度比 207 件減)

| | 身体 | 知的 | 精神 | 発達 | 難病 | 障害児 | 合計 |
|--------------|-------|-----|-------|-----|----|-----|-------|
| 福祉サービス利用について | 857 | 493 | 1,341 | 192 | 11 | 219 | 3,113 |
| その他 | 779 | 497 | 638 | 93 | 8 | 169 | 2,184 |
| 合計 | 1,636 | 990 | 1,979 | 285 | 19 | 388 | 5,297 |

③計画相談の実施状況

(前年度比 10 件減)

| | 身体 | 知的 | 精神 | 発達 | 難病 | 障害児 | 合計 |
|-----------|-----|-----|-----|----|----|-----|-------|
| 利用計画（案）作成 | 62 | 35 | 71 | 14 | 3 | 27 | 212 |
| 利用計画書作成 | 63 | 41 | 71 | 12 | 2 | 30 | 219 |
| モニタリング実施 | 238 | 146 | 301 | 44 | 6 | 74 | 809 |
| 合計 | 363 | 222 | 443 | 70 | 11 | 131 | 1,240 |

III. 継続課題

- ・利用者主体が尊重される計画づくり
- ・関係機関との支援強化、連携強化
- ・勉強会や研修会に積極的に参加しスキルアップ

マイプラン・ケアマネジメントセンター

I. 総括

介護保険分野では、訪問・相談を継続しつつ、新規利用者の獲得に努めました。下半期は2.5名の人員に増えてましたが、引継ぎや新規の受け入れ態勢が整わず、次年度への課題となりました。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

①利用者の想いを聴く時間を増やす

・利用者と向き合う時間を増やすため、業務内容の再確認や事務作業や情報共有のルール化を行うことで環境の整備を行いました。緊急時の対応を含めて利用者とは対話する時間を増やすことができました。今後も意識して想いを聴く時間を作っていきます。

②緊急時にむけての情報整理を行い、活用ができるようシミュレーションを行う機会をもちます

・BCPと関連付けた対策マニュアルに向けて、個人情報の整理や緊急時に対する思いの聴き取りと緊急時を想定し、必要な情報の整理を行いました。シミュレーションを実施できなかったため、令和5年度は図上訓練を行う日程を決めました。利用者を取り巻く状況は変化があるため、聴き取りに関しては令和5年度も継続して行っていきます。

③事業の継続を担保するため、利用者数を増やし赤字を縮減していきます

・法人内およびいきいき支援センターからの依頼、高齢者いきいき相談室の依頼や、ターミナルの利用者を積極的に受けました。年度当初の予算案では、要介護を毎月1人。要支援を二か月に1人ずつ増加で計算していましたが、要介護21人（要支援から要介護になった方含む）、要支援24人の増加となりました。また、逝去や施設入所、サービスの必要がなくなる等で8人の利用減となっています。事業の特性上、自然減があるため、令和5年度も要支援を含めて依頼を受けていきます。

2. 年間利用者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 要介護利用者数 | 39 | 41 | 41 | 42 | 42 | 44 | 46 | 50 | 47 | 49 | 52 | 56 |
| 要支援利用者数 | 12 | 11 | 11 | 17 | 18 | 16 | 21 | 20 | 20 | 20 | 22 | 21 |
| 総合事業利用者数 | 3 | 3 | 4 | 4 | 5 | 6 | 7 | 6 | 7 | 6 | 5 | 5 |

III. 継続課題

- ・法人からの条件に副わない利用者（いきいき支援センター）からの依頼が多くありました。職員の増員もあり、条件に合う方みの受け入れでは、赤字の縮減が難しいため、条件の見直しを提案していく必要があると考えています。
- ・一般的な利用者だけでなく、困難ケースやターミナルなどへの対応力をあげていくためにも、目的を決めた自己研鑽を行う必要があると考えています。

AJUリカバリーセンター・フェロー

I. 総括

アルコール依存症の利用者は、病院を退院してから間髪入れずに入所する人が殆どで、コロナで病院に立ち入れない状況が続き、面談などが出来ず利用者確保が思うようにできませんでした。自立訓練の入所を検討していた人も手続きなどに時間がかかり、気が変わって入所を断ってきたケースが何件もありました。就労支援系事業に関しては、知的障害者、身体障害者の利用者が一人もいないので、利用者確保するため、次年度は知的・身体障害者の対応できる職員の配置を強化する必要があります。月一回はレクリエーションなど行い、いろんな場所に出掛けてストレスが溜まらないように気分転換を行いました。自立訓練を利用されていた利用者がビザの関係で直ぐに就労しないとイケない状況になり、やむを得ず退所をしましたが、退所後も頻繁に連絡を取り合っておりアフターケアを行っています。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

①それぞれの特性に合わせた支援を行い、社会復帰及び生活能力向上につながるプログラムを提供します。

- ・アルコールプログラムや既存の作業を行いながら、喫茶や畑作業、室内作業（お菓子作り・野菜栽培・革製品）などを提供し、社会復帰や生活能力向上にむけて指導しました。
- ・作業ではない新しいプログラム（音楽・手芸等・ヨガ）も取り入れながら、利用者に安定したプログラムを提供しました。
- ・調理プログラムを提供し、次年度から食堂で就労できるように指導しました。

②自立訓練(生活訓練及び宿泊型)利用率 100%、就労移行支援と就労継続B型の利用率を共に70%以上確保できるようにし、全体で80%以上確保します。

- ・コロナウイルス感染症の影響で病院メッセージや広報が出来ず、目標の利用者数を確保することが出来ませんでした。自立訓練及び宿泊型に於いては、平均で90%の利用率を維持することができましたが、就労移行は新規利用者を確保することが出来ませんでした。
- ・就労継続B型は5名の利用者がいましたが、1名は緩和ケア病院に移り、もう1名は体力的に通所するのが困難になり退所となりました。
- ・12月末から1月にかけて施設内でコロナ陽性者が出て、利用率が全体的に減少しました。知的・身体障害者の利用者は今年度も確保することが出来ませんでした。

③三者協定書の締結を進めるため、地元自治会、名古屋市、AJUで三者協議会を定期的に行っていきます。

- ・地元自治会、名古屋市との三者協議会を平均月2回行いましたが、締結には至りませんでした。

2. 利用実績

<1日あたりの平均利用者>

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 月平均 |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 宿泊型 (名古屋マック) | 14.4 | 14.4 | 14 | 12.5 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14.1 | 12.7 | 13.3 | 13.9 | 13.78 |
| 生活訓練 (名古屋マック) | 16 | 16.3 | 16 | 16.3 | 16.1 | 16.2 | 16.1 | 16 | 15.2 | 15 | 15.3 | 15.2 | 15.81 |
| 就労移行支援 (Tiny) | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1.8 | 2 | 2 | 2 | 1.98 |
| 就労継続支援B型 (TYM) | 4.5 | 5 | 4.6 | 3.4 | 2.4 | 2.5 | 2.4 | 2.5 | 2.9 | 3.4 | 3.3 | 3.4 | 3.36 |
| 計 | 36.9 | 37.7 | 36.6 | 34.2 | 34.5 | 34.7 | 34.5 | 34.5 | 34 | 33.1 | 33.9 | 34.5 | 34.93 |

<当初目標利用者数における達成率>

| | 当初目標 利用者数 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 月平均 |
|-------------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 宿泊型 (名古屋マック) | 15名 | 96% | 96% | 93% | 83% | 93% | 93% | 93% | 93% | 94% | 85% | 89% | 93% | 92% |
| 生活訓練 (名古屋マック) | 18名 | 89% | 90% | 89% | 90% | 89% | 90% | 89% | 89% | 85% | 83% | 85% | 85% | 88% |
| 就労移行支援 (Tiny) | 7名 | 29% | 29% | 29% | 29% | 29% | 29% | 29% | 29% | 26% | 29% | 29% | 29% | 29% |
| 就労継続支援B型 (TYM) | 12名 | 38% | 42% | 39% | 29% | 21% | 21% | 21% | 21% | 25% | 29% | 28% | 29% | 29% |
| 計 | 52名 | 63% | 64% | 63% | 58% | 58% | 58% | 58% | 58% | 58% | 57% | 58% | 59% | 59% |

III. 継続課題

- ・全事業の利用者の確保。特に、知的・身体障害者の利用者獲得のためにスタッフの増員及び支援体制の構築が必要。
- ・喫茶の店舗営業ができるようになり、地域の方などにも利用していただけるようにする。
- ・畑で採れた野菜の販売方法の拡充検討や、加工商品の開発等を進める。
- ・地元自治会、名古屋市との三者協定書の締結ができるよう、引き続き定期的に三者協議会を行う。

社会啓発・社会貢献事業室

I. 総括

2022年度は、国連の権利委員会による障害者権利条約の日本審査（建設的対話）が開かれ、人権について考える1年となりました。

新型コロナウイルス感染症も少し落ち着きを取り戻し、これまでオンラインを使用した活動が中心となっていました。ピア・カウンセリング集中講座・オンゴーイング講座を対面にて開催することができ、実際に会って目を見て話を聞きあうことの重要性や障害者同士で話を聞きあうことの重要性を改めて実感することができました。

啓発活動では、愛知TRYとして障害者差別解消法の周知を目的に、普段から利用しているお店にスロープ・筆談ボードを設置する活動を実施しました。また外部研修として車いすセンターの支部を担っていただいている（株）マザーズの新人研修にて、人権に関する講演を行う機会をいただきました。

海外支援・国際交流としてダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業に協力し、カンボジアのポリオの男性を研修生として迎えA J U車いすセンター並びにA J U自立の家の活動内容や名古屋市内のバリアフリー状況などを一緒に体験しお伝えしました。

II. 事業の実施状況

1. 令和4年度の目標達成のための具体的な行動

①障害者同士のピアな関わりの場と、障害に関わらない人間関係をつくり、エンパワメントを促します

- ・自立生活プログラム長期講座

日程：2022年5月21日～2022年7月23日 毎週土曜日（6/25、7/9はお休み）

開催方法：ZOOM 参加者数：2名

- ・ピア・カウンセリング集中講座

日程：2022年12月2日～12月4日 2泊3日

開催場所：ウィル愛知 参加者数：5名

- ・ピア・カウンセリングオンゴーイング講座

開催回数：8回 第4木曜日 14：00～16：00

開催方法：ZOOM・昭和生涯学習センター 延べ参加者数：32名

- ・ZOOMでしゃべり場企画

開催回数：12回（毎月第2木曜日 14：00～15：00）

開催方法：ZOOM 延べ参加者数：71名

- ・個別自立生活プログラム

自立を目指す当事者（在宅）の方に車いすセンターのスタッフ2名で毎月1回、個別プログラムを行いました。サマリアハウスイセンターに通う当事者1名が毎週木曜日に車いすセンターで昼食を取られセンタースタッフが関わりました。

②社会貢献事業を通し、制度の狭間にある方の社会参加を促します

今年度もコロナ禍により外出しにくい状況にもかかわらず、597件の新規貸し出しがありました。昨年比で155件増えており、制度の狭間にいる方々の外出や日常生活の中で、地域の社会資源と

して一定の役割を果たせていると思えます。新規貸出では、0歳～9歳への貸し出しが106件、全体の26%を占めており、今後とも子ども用車いすの確保が課題となっています。

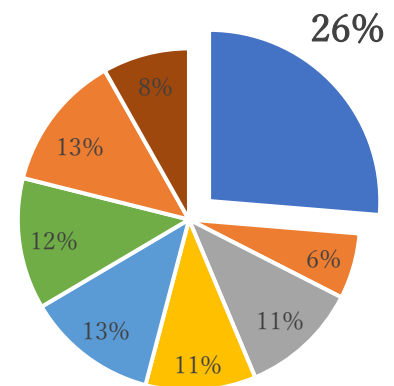
③啓発事業を通し、社会へ人権意識を深めます

- ・「愛知 TRY」では、愛知県民促進事業を受託し、愛知県内の店舗に対しスロープ・筆談ボードを設置する事業を行いました。これまでにステッカー活動に協力いただいた県内の店舗等に募集をかけ、スロープを3店舗、筆談ボードを7店舗に設置することができました。
- ・「センターdeショー」では毎月1回、A J U自立の家に関わる仲間に情報発信を行いました。今年度はA J U自立の家の部署間のつながりを強化するための取り組みとして、当日カメラを繋ぎ、各部署の仲間やスタッフに部署紹介を行っていただき、各部署の取り組みを改めて知る機会となりました。
- ・愛知県重度障害者連絡協議会の事務局を担い、愛知県内の街づくりに関する活動を行いました。2026年に愛知及び名古屋で開催されるアジア・アジアパラ競技大会に向け、会場となる施設などのアクセシビリティについて、名古屋市や地域との意見交換会へ積極的に参加しました。

2. 貸出実績数

| | 新規貸出件数 | | |
|-----|--------|-----|-----|
| | 新規合計 | 個人 | 団体 |
| 4月 | 50 | 40 | 10 |
| 5月 | 41 | 32 | 9 |
| 6月 | 67 | 40 | 27 |
| 7月 | 50 | 31 | 19 |
| 8月 | 49 | 41 | 8 |
| 9月 | 53 | 50 | 3 |
| 10月 | 58 | 43 | 15 |
| 11月 | 87 | 39 | 48 |
| 12月 | 44 | 30 | 14 |
| 1月 | 36 | 25 | 11 |
| 2月 | 32 | 16 | 16 |
| 3月 | 30 | 30 | 0 |
| 合計 | 597 | 417 | 180 |

- 0-9歳
- 10歳代
- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代
- 70歳以上



III. 継続課題

- ・当事者への積極的な支援
- ・ミーティングスペースなどの活動場所
- ・有効的な啓発活動の実施方法